



「つくば子育てカレンダー」の発行に向けて

「いつ、どんな集まりが開かれているの?」「仲間をつくるには、いつ、どこに行ったらいいの?」
毎月の子育て支援の予定をまとめた「つくば子育てカレンダー」を、つくば市地域子育て支援センターが発行することになり、「かるがも・ねっと」でその編集をすることになりました。第1号は、来年の1月のカレンダーです。

以後、毎月25日に、次の月のカレンダーが発行になります。まずは「子育て支援センター」や「保健センター」などでの配布が予定されていますが、私たちの協力で、次第に部数や配布場所が増えていけばと思います。

編集には、皆様からの情報が不可欠です。子育て中の保護者の方や親子、子どもたちに参加を呼びかけたい「集まり」や「イベント」がありましたら、情報をお寄せください。

情報の募集に関して

- 情報の締切 毎月15日
- 情報の送り先 メール：karugamo_net@yahoo.co.jp
FAX：029-853-4829
- 情報の内容
- ・集まりやイベントなどの名称
 - ・開催の月日・時間
 - ・開催場所
 - ・問い合わせ電話番号

電話番号のカレンダーへの掲載を希望しない場合には、その旨、お書き添えください。

第1号は、年末を避けて、少し早めに発行する予定です。情報は、12月10日(日)までにお寄せください。

ニュース・レターに「見本」を同封します。ご参照ください。

* * * * 報告 * * * *

「子育て支援を考える 2006～子育て支援って何でも屋さん?!～」

気持ちの良い秋晴れの空のもと、9月30日(土)に、助言者に武藤陽子さんをお招きし、「子育て支援を考える 2006～支援者って何でも屋さん?!～」を開催しました。当日は、40名以上の方が参加し、現在の支援のあり方について、子育ての当事者・支援者それぞれの立場から、活発な議論がなされました。

(次頁以降に、報告が続きます)



「かるがも・ねっと」の発足のきっかけとなった「子育て支援を考える」と題したワークショップは、今年で3年目を迎えました。今回のワークショップでは、かるがも・ねっとの参加者なら誰でも関わっている子育ての「支援」に焦点を当て、子育て当事者・支援者双方の立場から、支援者の役割について、考える機会を設けました。具体的には、まず、子育て当事者と支援者に分かれ、当事者側は、「支援を活用してみた感想」、「支援者への希望や思い」を出し合いました。また、支援者側は活動の種類別に、A～Dの4つのグループに分かれて、「現在行っている支援活動の実際」や「活動をしていて生じた疑問や悩み」を出し合いました。さらに、ここで話し合われた内容を全体で共有した後、子育て当事者がA～Dのグループに加わり、子育て当事者と支援者が混ざり合ったグループで、再度、今後の課題について検討しました。

以下では、後半のグループワークを通じて見えてきた課題や、今後の活動を考えるためのポイントを簡単にご紹介していきます。

グループA：親子がつどう場をつくる支援

このグループには、サロンの場や自主保育、親子教室等を実施している支援者と子育て当事者が参加しました。

このなかで、支援者側からは、支援者と母親とのコミュニケーションを大切にすることや、母親同士の関係作りに対する支援等、支援の場における配慮の大切さが話し合われました。その一方、現役の子育て当事者からは、歩いて行けるような距離に、気軽に寄れる場がほしいといった、支援の場自体に対する要望が出されました。これらの意見を踏まえ、今後の課題としては、地域のなかに根付いた仲間作り・場所作りの必要性が提案されました。



グループB：子どもを預かる支援

グループBには、一時的な預かりを行っている機関・団体の関係者、さらに、一時預かりを利用している子育て当事者等が参加しました。

話し合いのなかで、支援者が配慮している点として、母親の気持ちに寄り添うことや安全への心がけ等が挙げられました。さらに、支援者側の課題として、緊急時の預かりや、「保護者のニーズにどこまで対応すべきか」といった支援の度合いについて、話し合われました。また、支援者はアドバイスよりも共感をしてほしいという子育て当事者からの要望を踏まえ、保護者に対するアドバイスの仕方についても議論がなされました。

グループC：親の学びの機会をつくる支援

このグループでは、乳幼児家庭教育学級や保健センターでの子育て教室、自主保育の関係者等の支援者を中心に、子育て当事者を交えながら、親の学びについて、話し合われました。

なかでも、支援者の話し合いでは、「子育てにおける学びとは何か」といった「学び」そのもののあり方が議論されました。そして、子育てにおける「学び」は、椅子に座って講座を受ける、いわゆる“座学”といったものではなく、人との出会い等も含んだ、広い概念として捉えることが必要ではないかとの提案がなされました。また、子育て当事者から挙げられた、情報提供の場や父親の学びの場への需要を踏まえ、これからの課題として、「いろいろな学びがあることを見つめること」や「学びの機会のあり方の見直し」が提案されました。

グループD：遊びからはじめる支援

グループDには、読み聞かせや外遊びといった遊びの機会・場を提供している支援者と、遊びに関心のある子育て当事者が参加しました。

支援者同士の共通の課題としては、支援の場における、保護者への働きかけの仕方や、室内遊びから外遊びへとつないでいくやり方が課題となっていることが挙げられました。また、子育て当事者ならびに支援者に共通する悩みとして、遊び場の安全をどのように守るかということが出され、今後の活動を行う上での課題として、提起されました。

♪ 議論を踏まえて - 助言者 武藤陽子さんからのコメント -

各分科会の報告を踏まえて、助言者の武藤陽子さんから、「冒険遊び場の会」での活動や経験を踏まえ、アドバイスをいただきました。

全体を通じて、皆さんの思いや意見がたくさん出され、素晴らしい会になったと思います。今回、皆さんから出された意見や課題について、国分寺での私の活動経験をもとに、お話したいと思います。

まず、話し合いの中で、室内の遊びから外遊びへのつなげ方が課題として出されていましたが、冒険遊び場の会では、実際に外遊びへとつなぐ際には、他の支援の場を紹介するだけではなく、その場にいる知り合いも紹介するようにしています。こうした人のつながりがあると、お母さんたちも行きやすくなるようです。「かるがも・ねっと」でも、同じように、それぞれのネットワークやつながりを使って、「さんがいるから行ってみたら？」という形でつなげていくもいいのではと思います。

最近、支援を行うなかで気になるのが、自分さえよければよいというお母さんたちが多いことです。お母さんたちは、支援の場に来て、お友達とのおしゃべりに忙しくなってしまう、自然に「スタッフ＝子どもと遊ぶ人、お母さん＝しゃべる人」といった役割が生まれてきてしまいます。支援の場では、こうした役割が生まれないう、できるだけ、お母さんを巻き込んで遊ぶようにしています。また、自分の子どもとは遊べるけど、他の子とは遊べないお母さんもよく見かけます。このような場合には、支援者は、お母さんに対して、なるべく他の子に声をかける機会を提供できるような働きかけを行っています。こうした働きかけが、地域で子どもを育てる第一歩になるものと考えています。

最後になりましたが、「冒険遊び場の会」では、活動を通じて、市の公園課等、行政とのつながりをつくってきました。「かるがも・ねっと」の今後の発展のためにも、子育て支援課や公園課といった行政とのつながりをつくっていくことも、課題のひとつになるかと思っています。



助言者 武藤陽子さんのプロフィール

出産を機に公立保育園を退職、自主保育グループを立ち上げて子育て。その後、国分寺市内の児童館とファミリーサポート嘱託職員の経験を経て、大学院で子育て支援を学ぶ。4年前からは、野外と室内の両方で、乳幼児から小・中学生までを対象に、さまざまな子育て支援活動を行っているNPO法人「冒険遊び場の会」代表となる。その間、国分寺市の次世代育成支援計画などの委員を務める。

NPO法人 冒険遊び場の会 <http://members3.jcom.home.ne.jp/boukenasobibanokai/>

お知らせ

「子育てフェスティバル in けやき広場」からの協力をお願い

(主催：つくば市 / 子ども課 つくば市地域子育て支援センター「けやき広場」)

昨年、100組以上の親子が参加し、大盛況だった「子育てフェスティバル in けやき広場」。今年も、11月18日(土 9:30~11:30)に、桜総合体育館で行われます。つきましては、下記の件に関して、皆さまに、ご協力をお願いします。なお、フェスティバルの内容につきましては、同封しました別紙をご参照ください。

募集内容：詳細は、つくば市地域こそ支援センターまでお問い合わせください。

子育て・子育て支援団体・グループの活動紹介のポスター・パネルの募集

活動紹介のポスター・パネル、チラシなどは、11月16日(木)までに、つくば市地域子育て支援センター「けやき広場」までお持ちください。

また、当日、団体の活動紹介を行う時間を設けています。ご都合がつくようでしたら、是非、団体の活動紹介に参加していただけますよう、重ねてお願いします。

当日、遊びコーナー(手作りおもちゃ)を担当して下さる方の募集

昨年、好評でした飛行機づくり(ストローと厚紙チラシを利用した)など、参加している親子に簡単なおもちゃの作り方を教えてくださる方、募集中。

その他、当日、お手伝いに来てくださる方も大歓迎！

問い合わせ先：857-9037(つくば市地域子育て支援センター「けやき広場」)

子育て支援の資源調査のご協力ください

～筑波大学共生教育学(教育社会学)研究室からのお願い

筑波大学共生教育学(教育社会学)研究室では、「平成18年度筑波大学社会貢献プロジェクト」の支援を得て、つくば市の子育て支援資源の調査を行うことになりました。調査では、つくば市の子育て支援に関係する機関・団体・サークル・グループにお願いして、活動の内容や場所、日程、連絡先などを調べることにしています。集めた情報は、データベース化して「かるがも・ねっと」に提供し、子育て中の保護者の皆さんへの情報提供などに役立てます。皆様が関係していらっしゃる機関・団体・サークルに調査票をお送りします。どうぞ、ご協力を、お願いいたします。

予告：12月に「子育て支援における安全」をテーマに

かるがも・ねっとの学習会を開催します。ぜひご参加下さい

9月に行われた「子育て支援を考える2006」の「遊びからはじめる支援」のグループから課題のひとつとして出された「安全」。これを支援の場における共通の課題として取り上げたいと考えています。

日頃の活動の中で「安全」に関して、難しさを感じていること、工夫していることなどを話し合ってみませんか。現在、12月16日(土)が9日(土)の13:30~を予定しています。詳細は、後日お知らせします。



発行：つくば市子育て支援ネットワーク **かるがも・ねっと**

「かるがも・ねっと」は、つくば市にある子育て支援に関わる機関・団体・サークル、ボランティアのネットワークです。

発行日：2006年11月1日

編集：飯田浩之・丹治恭子・渡辺恵

問い合わせ先：karugamo_net@yahoo.co.jp / FAX：029-853-4829(筑波大学教育社会学研究室)